



豊かな自然・
かがやく文化
大好き阿賀町

～「阿賀町15年教育」で未来の創り手を育む～

阿賀町学習指導センターだより

令和3年10月18日（月）№18

授業づくり2 津川小 柳下 岬 先生

4年 国語科 単元「中心となる語や文を見付けて要約し、調べたことを書こう。」、教材：「世界にほこる和紙」です。本時は、16時間中3時間目です。ねらいは、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要点をまとめている」です。

**** 子どもの実態をよく理解し、知見に学ぶ授業づくり ****

柳下先生は、子どもたちの苦手とすることを、日常の見取り、子どものアンケートをもとに洗い出していきます。子どもたちが抱える苦手なことを克服させるための手立てを練り上げ、授業に臨まれていました。子どもたちの粘り強い学習の様子も見ることができました。

ここを学びたい～フレームリーディング～



子どもの実態を「物語文に比べ、説明文は内容がイメージしづらく、苦手意識をもっている」と捉えた柳下先生。これを克服させるため、「フレームリーディング」という方法で説明文教材の授業を構想されています。「フレームリーディング」とは、「文章を細切れにして読むのではなく、文章全体をつかんで深く内容を理解するための方法」です。これにより、「子ども（読み手）の思考の型を育み、文章を読める」ようになります。

子どもの実態を把握し、その上で、「知見」や「有効な方法」を活用し、授業づくりを進める柳下先生の取組は、大いに学ぶべきところ です。

授業でも、子どもたちは、教材「世界にほこる和紙（説明文のフレームの一つである双括型に当てはまる。）」を「サンドイッチ型だ」と発言し、「まとめや筆者の主張が、文章の前と後ろの両方にある」ことを認識していました。

今後も「フレームリーディング」による授業づくりを進めていただき、その成果をぜひ発信していただければと思います。

ここを学びたい～要点まとめカードを用いた手だて～



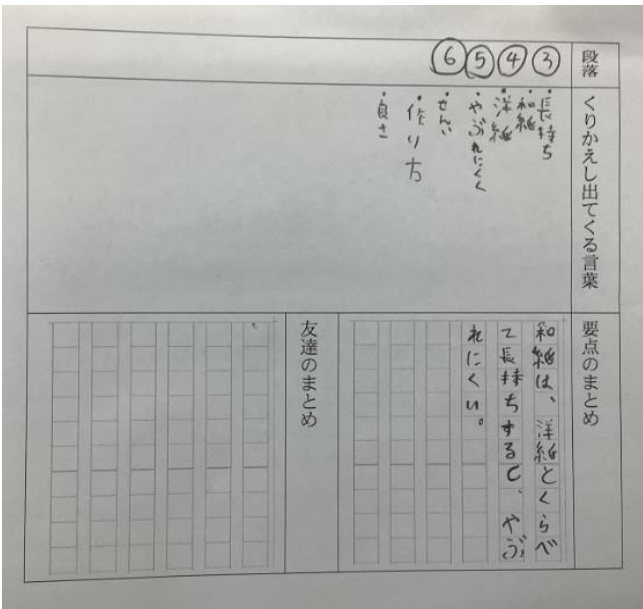
「書くこと」が苦手な子どもたち。柳下先生は、これまでの「文型を示す」「字数を減らす」といった手だてをとることで、子どもたちの書くことへの抵抗感を和らげた上で、指導されてきました。本単元では、「要点のまとめを行ってから書かせる」、つまり「繰り返し出てくる言葉を書き出す」「それらをつなげて文章にする」という手だてを立てました。本時では、「要点をまとめる」活動の2回目が設定されていました。

「繰り返し出てくる言葉は何かな。」と柳下先生と問います。子どもたちは次々に答えながら、それらを明らかにし、カードに書き出していきます。それを手がかりに、各自が要点をまとめていました。

柳下先生の学級の子どもたちに限らず、書くことを苦手とする児童生徒は多いことでしょう。今回の授業で示されたような手だてで、丁寧に繰り返し指導していくことが、子どもたちにその苦手を克服させることにつながりますね。

(写真下:要点まとめカード)

キーワードに着目し、友達のまとめに学ぶことができるよう用紙を工夫されていました。



もっと知りたい、「フレームリーディング」

「フレームリーディング」に関心をもたれた方は、青木伸生先生の著書、動画をお勧めします。併せて、ぜひ柳下先生と情報交流されて、授業づくりを進めてみてはいかがでしょうか？

※ 指導案、学習の様子は、共有ドライブ➡教育委員会➡学習指導センター➡授業づくり研修指導案フォルダ にありますので、ぜひ、ご覧ください。

発行 阿賀町学習指導センター
 〒 959-4392 東蒲原郡阿賀町鹿瀬 8931 番地 I
 ☎ 0254-92-3337 (直通) ☎ 0254-92-2116
 E-mail kohiyama_hyk4042@town.aga.lg.jp kyoiku3@town.aga.ed.jp 町の鳥 ウグイス

